

事務機能の強化による学校マネジメント力の向上

2014/10/31

加藤崇英 茨城大学

内 容

- ① 教職員の多忙化と解消の取組
 - TALIS調査から
 - 学校の業務改善
- ② 学校事務の現状と機能強化
 - 個人・組織課題（学校のウチ）
 - 地域多様性と課題（学校のソト）
 - 機能強化、研修整備の必要性
- ③ 「チーム学校」
 - 学校のチーム力向上の必要性
 - 学校事務職員への期待

①

教職員の多忙化に関わる量的調査

- 国際調査

- OECD国際教員指導環境調査（TALIS : Teaching and Learning International Survey）2013年第2回調査

- 国内調査

- 平成18年度文部科学省委託調査「教員勤務実態調査（小・中学校）」報告書 [2006年]

教員の仕事の時間

- 日本 54時間。参加国平均38時間。
- 指導（授業）に使った時間はそれほど差はなく、一般的事務業務などに多くの時間を費やしている。
- スポーツ活動など課外活動の指導にかかる時間が週8時間。（参加国平均2時間）

● TALIS調査より

教員の効力感

- 教員の自己効力感（高くなる）
 - 年5回以上専門的な勉強会の参加した
 - 他の教員の授業見学などの教員間の協力や協働を行った
- 教員の職能開発への参加の障壁
 - 日程が自分の仕事のスケジュールと合わない
 - 費用が高い、雇用者からの支援が不足

● TALIS調査より

数値に見えにくい負担増

- 評価や採点、添削など、学習の記録に関する業務
- 出席や安全に関わる点呼、点検、付き添い、管理に関する業務
- 保護者や地域への対応。その対応にどのような体制や方針で取り組むかということに関する打合せ、確認、協議に要する時間
- “ちょっと”の膨大な集積
 - ちょっと見てあげる。ちょっと聴いてあげる。ちょっと教えてあげる。

学校の業務改善（茨城県の取組）

- 茨城県教育委員会義務教育課
 - 平成23～25年度「教員の勤務負担軽減等の取組」に係る学校の業務改善（効率化等）に向けた実践研究」（モデル校事業）
 - 平成26年度「自律的・組織的な学校運営体制の構築に向けた実践研究」（モデル校事業）
- 県内各教育事務所、管理職研修会、教務主任研修会等により拡げる。
- 校務の効率化リーフレット—子どもと向き合う時間を充実させるために—
 - <http://www.edu.pref.ibaraki.jp/board/gakkou/shochu/gakkodukuri/koumu/index.html>

学校マネジメントの課題

方向性を明確にしつつ、業務の負担・配分に配慮する

- 教育課題の複雑化、多様化、多量化
- 教職員の力量経験差、個人差、温度差
- 保護者・地域・周辺学校との連携協力、意思疎通
 - 目標設定の焦点化、優先順位の明確化
- 教員の多忙化
- 組織・業務の効率化
- 時間の確保
 - 学校全体における業務改善の必要性